

## ▲夏期実施：共通 英語

I.

別紙の論文 (Gregoire & Greening, 2019) について、以下の間に日本語で答えよ。

問1 この研究では mental imagery を用いているが、その臨床実践上の必要性を、主として「Introduction の下線部」の内容を元に解説せよ。(下線部の内容以外を解説に用いても良い)。

問2 本研究の実験デザインと手続きに関して以下の問いに答えよ。

CS	Day 1		Day 2		Day 3	
	Acquisition	CSとUSを対呈	Memory reactivation → Extinction	Reinstatement	⇒ Re-extinction	
Reminded CS+	CSとUSを対呈	(④)	CSを単独呈示	CSを単独呈示	CSを単独呈示	※解答用紙に解答すること
Non-Reminded CS+	(①)	(④)	CSを単独呈示	USを単独呈示	CSを単独呈示	
CS-	(②)	(⑤)	CSを単独呈示		CSを単独呈示	

1) 上の表のカッコ内の内容について、Fig.1 を参照した上で、選択肢ア～キの内からもっとも適切な記号を表内に記入せよ (Day 1 の habituation については省略してある)。ただし、①～②はア～ウ、③～⑤についてはエ～キの中から選ぶこと。

※同じ選択肢を複数回用いてもよい。

①～②の選択肢

ア：CS を単独呈示、イ：US を単独呈示、ウ：CS と US を対呈

③～⑤の選択肢

エ：CS をイメージ、オ：US をイメージ、カ：CS と US の両方をイメージ、キ：CS も US もイメージしない

2) Reinstatement とは「消去された条件反応が、消去後に US の単独呈示を受けることによって再出現する現象」である。本研究で使用された3つのCS条件について、reinstatement が生じるか否かに関してどのような予測がされていたかを簡潔に解説せよ。

3) 各CS条件を設定した理由(各条件の役割)を簡潔に解説せよ。

別紙

(著作権の都合上、論文の掲載をしております。)

出典：Laurent Gregoire, Steven G. Greening (2019). Opening the reconsolidation window using the mind's eye: Extinction training during reconsolidation disrupts fear memory expression following mental imagery reactivation. *Cognition*, 183, 277-279

II. 次の英文を読み、問いに日本語で解答しなさい。

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

出典：Coles, N. A., Gaertner, L., Fröhlich, B., Larsen, J. T., & Baasnight-Brown, D. M. (2023). Fact or artifact? Demand characteristics and participants' beliefs can moderate, but do not fully account for, the effects of facial feedback on emotional experience. *Journal of Personality and Social Psychology*, 124(2), 287-310.

問1 下線ア) を訳せ。

問2 この実験の手続きの流れを、フローチャートを用いて説明せよ。

問3 Self-Reported Happiness の結果を図示せよ。結果の重要な特徴がはっきりわかるように描くこと。数値の正確さは問わない。

問4 下線イ) our initial prediction について、①どのような予測だったか説明せよ。②予測を立てるために著者が挙げている根拠についても示せ。③実際に得られた結果が意味することを説明せよ。

## ▲夏期実施：共通 専門に関する論文

I. 以下の各用語について簡潔明瞭に説明せよ。

問1 カクテルパーティ効果

問2 錐体細胞と桿体細胞

問3 味覚嫌悪条件づけ

問4 フラッシュバルブ記憶

問5 視覚的断崖

問6 老化 (エイジング) に伴う変化

問7 快楽原則と現実原則

問8 行動遺伝学

問9 積極的行動支援 (Positive Behavioral Support: PBS)

問10 基本的帰属錯誤

II. 以下の文章を読んで、設問に解答してください。

American Statistical Association (ASA)は、2016年にp値に関する声明を発表しました<sup>1)</sup>。その声明では、定量的な科学研究の実施やその解釈を改善するために、統計学の学術コミュニティで得られているコンセンサスに基づいた「6つの原則」が述べられています。その原則とは、以下のとおりです。

1. p値はデータと特定の統計モデルが (あ) する程度をしめす指標のひとつである。
2. p値は、調べている仮説が正しい確率や、データが偶然のみでえられた確率を測るもので (い) 。
3. 科学的な結論や、ビジネス、政策における決定は、p値が超えたかどうかのみに基づくべきで (う) 。
4. 適正な推測のためには、すべてを報告する透明性が必要である。
5. p値や統計的有意性は、効果の大きさや結果の重要性を意味しない。
6. p値は、それだけでは統計モデルや仮説に関するエビデンスの、よい指標とはならない。

文献1) Wasserstein, R. L., & Lazar, N. A. (2016). The ASA Statement on p-values: Context, process, and purpose. *The American Statistician*, 70(2), 129-133. <https://doi.org/10.1080/00031305.2016.1154108>

1) (あ)～(う)に当てはまる最も適切な語句(ただし、各10文字以下)を答えてください。

2) 上記の「原則4」の理由を述べてください。

3) 上記の「原則5」の理由を述べてください。

4) p値に関する誤用や誤解が流布しているため、一部の統計専門家はp値以外のアプローチも採用することを推奨しています。そのようなp値以外のアプローチにどのようなものがあるでしょうか。また、あなたが挙げたアプローチについて簡単に説明してください。

## ▲夏期実施：心理学 専門に関する論文

III. 心理学の研究を計画するうえで、研究の妥当性、再現性、信頼性のそれぞれを担保するために、考慮すべきことについて具体的に論じなさい。

## ▲夏期実施：臨床心理学 専門に関する論文

III. 心理専門職の多職種連携について以下の問いに答えなさい。

(1) 多職種連携と秘密保持義務の境界は曖昧である。医療機関で勤務する心理専門職として、患者の個人情報についての秘密保持義務を履行しながら、多職種連携の責務を果たすためには、心理専門職者はどのようなことを配慮し、どのような態度を示すべきと考えるか。具体例を示しながら論じよ。

(2) 小学校でのスクールカウンセリングにおいて、「遅刻が多い、授業中に頻りに離席をしてしまう、集団行動をとれず担任教師の指示が通らない、他の児童に手を出しトラブルになってしまう」といった問題を抱えるケースに対応することになった。今後の対応において連携する職種・機関としてどのような相手か考えられるか。またどのように連携を進めていくか。想定する相手を具体的に挙げながら、その学校に勤務しているスクールカウンセラーの立場から、連携の内容を答えなさい。

■秋期実施：共通 英語

I. 次の英文を読んで問いに日本語で答えよ。

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

出典: Deng et al. (2016). Impairment of time-base prospective memory in patients with Wilson's disease. *European Review for Medical and Pharmaceutical Sciences*, 20, 1845-1851.

- 問1. 下線部(a)を日本語に訳せ。
- 問2. (1) Time-based prospective memory課題で使われた100枚のカードの任意の1枚には例えばどのような刺激が書かれているか図示せよ。  
(2) それらのカードについて実験参加者に求められている作業は何か説明せよ。
- 問3. (1) Time-based prospective memoryはどのような行動で測定されているか。  
(2) このような課題でなぜTBPMが測定できると考えられるか説明せよ。
- 問4. 二重下線部で示したFigure 2について、結果の重要な特徴がはっきりとわかるように図示せよ。数値の正確さは問わない。

II. 次の英文を読み、問いに日本語で答えよ。

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

出典: Haller, H., & Krauss, S. (2002). Misinterpretations of significance: A problem students share with their teachers? *Methods of Psychological Research Online*, 7(1), 1-17.  
出典: 科学むしばむ「不適切な研究」. 日本経済新聞, 2024.4.14, 朝刊, p.26

- 問1. 質問項目 2), 3), 5), 6) (下線部分)について、①和訳せよ、②それぞれどこが間違っているか、英文をもとに日本語で解説せよ。
- 問2. 英文の内容をふまえると、解答用紙に示した日本経済新聞 2024年4月14日 朝刊 26面の記事の「キーワード」の中には誤りがある。  
1) 誤りの箇所アンダーラインを引け。  
2) 英文をもとに、1)にかわる正しい表現を日本語で記述せよ。  
3) 2)を英訳せよ。

■秋期実施：共通 専門に関する論文

I. 以下の各用語について簡潔明瞭に説明せよ

- 問1 基準関連妥当性  
問2 交感神経と副交感神経  
問3 形の知覚における図と地  
問4 変動比率強化  
問5 気分一致効果  
問6 クレッチマーの体型論  
問7 自閉スペクトラム症  
問8 Randomized Controlled Trial  
問9 反動形成  
問10 作動自己

II. 次の架空の研究概要を読んで、(1)問題点を指摘し、(2)この仮説を検証するためのより良い計画を考えて「方法」部分を具体的に記述しなさい。解答用紙では(1)と(2)を明瞭に分けること。

目的

コーヒーはカフェインを含んでいることから、「コーヒーをよく飲む学生は睡眠の質が低く、結果的に学業成績も振るわない」という仮説を検証する。

方法

調査参加者: 同志社大学心理学部科目「心理統計法」出席者 162名。  
測定項目: 質問紙法により、「過去1週間何杯コーヒーを飲んだか」、「前年度終了時点でのGPA (成績評価値) はいくらか」、「性別」そして「年齢」の4項目に回答を求めた。  
手続き: 心理統計法の授業中に質問紙を配付し、その場で回答を求め、回収した。  
データ分析: 回収したデータのコーヒー摂取量とGPAの相関係数を算出した。

結果

回答に不備のない109名を対象として分析した結果、有意な負の相関( $r = -.212, p = .027$ )が認められた。

考察

仮説は支持された。コーヒーの飲み過ぎにより睡眠の質が低下し、学業成績が低下する。

■秋期実施：心理学 専門に関する論文

III. 人が、疑似科学 (pseudoscience) や陰謀論 (conspiracy theory) を信じてしまう心理メカニズムについて適切な認知バイアスの概念を用いて解説せよ。

■秋期実施：臨床心理学 専門に関する論文

III. 集団療法 (グループセラピー) について、以下の問いに答えなさい。

- (1) 集団療法について、①定義、②どのような (理論背景の異なる) 集団療法の種類があるか、③集団療法全般に共通する治療要因、④集団療法におけるセラピストの役割や機能を述べなさい。なお、集団療法を実施する人の呼称は「セラピスト」で統一すること。
- (2) あなたは児童相談所の心理専門職で、集団療法を用いてクライアントを支援したいと考えている。①どのような問題意識で何を目標にして集団療法を行うか、②どのような形式・内容・回数で行うかを含んだ実施計画を書きなさい (児童相談所内でのどのような部署にいるかは自身で想定して構わない)。また、③自身で考えた集団療法について初回までの間に何に気を付けて準備し・計画を進めるか、効果を最大限にするためにどのような工夫をしようと思うかについてできるだけ多く述べなさい。